

第4学年 社会科学学習指導案

1 単元名 「陶器の里に生きる人々の暮らし」

2 こんな子ども達だから

- 本学級の子どもたちは、これまでの社会科学学習の中で、問題に対して意欲的に調べる活動ができるようになってきた。しかし、調べた事実から考えを作り出すことが難しかったり、その考えを見直したりすることが不十分であった。また、交流活動を行う際にしても、友だちの考えを理解できなかったり、友だちの考えから自分の考えを見直したりすることが十分できていない。
- 福岡県内の他の地域については、これまで「ほとんど知らなかった」のが現状である。しかし、「わたしたちの福岡県（県の概要）」の学習の中で同じ県内に住む人々の中には、自分たちと自然条件や、従事する産業が違う人たちがいることに気づき始めている。また、身の回りの伝統的な工業製品についての関心は薄く、県内の伝統的な工業についての知識もほとんどない。
- 考えマップについては、事実のラベル化、グループ化については少し練習を積んでいる。ラベルを書くことで、自分の持っている事実が視覚化されるため、マップを書くことについては、意欲を持って取り組むことができる。ただし、ラベル化の吟味、グループ化の吟味については不十分であり、数が増えることがよいと考えている児童が多い。

3 こんな教材で

- 本単元では、福岡県の南東部にある東峰村小石原で生産される小石原焼を取り上げる。小石原では、約360年前から地域の土と自然を生かして行われている窯業により、村の産業が成り立っている。小石原焼は、もともと庶民の暮らしを支える日常雑器であり、日本でも有数の民陶である。小石原焼は、人々によって技術とともに伝統文化となって受け継がれている。こうした小石原焼を学習材として取り上げることで伝統と共生する人々の生き方を実感できると考える。
- 小石原の学習では、視点として、「森林に囲まれた小石原では原料の面で土地の条件を生かしている」ことと、「人々が古くから伝わる技術や道具など努力や工夫をしながら、地場産業である小石原焼きにつづいている」ことを押さえていく必要がある。それぞれの視点に対して根拠となる事実をラベル化したり、関連されるものをグループ化したりしながら考えマップを作成することを通して、視点についての自分の考えを確かにしていくことができると考える。また、それらを交流することを通して、相手の考えを理解し、自分の考えと関連づけしていくことが容易にできると考える。

4 こんな子どもの姿に

- 福岡県内の伝統的な地場産業である小石原焼に興味・関心を持ち、意欲的に調べることができるとともに、調べた事実をラベル化したり、関連付けてグループ化するなど、自分の考えが表現された考えマップを進んで作成することができる。（意欲・関心）
- 考えマップの作成を通して、小石原では自然条件を生かし、そこに住む人々の努力や工夫によって、伝統的な産業が今もなお盛んに行われていることについて考えることができる。（思考・判断）
- 体験活動や資料を調べて分かった事実を考えマップに整理し、自分の考えの根拠を構造的に考えマップに表現することができる。（資料活用）
- 考えマップに表現された自分の考えの変容を振り返り、確かめることを通して、自然条件を生かした小石原焼が、生産者の伝統を守る努力や、時代の流れの変化に合わせていこうという工夫を続けることで、福岡県を代表する伝統的な産業になっていることを理解することができる。（知識・理解）

5 こんな指導や支援を

- 本学級の子どもたちは、これまでの社会科学学習の中で、問題に対して意欲的に調べる活動ができるようになってきた。しかし、調べた事実から考えを作り出すことが難しかったり、その考えを見直したりすることが不十分であった。また、交流活動を行う際にしても、友だちの考えを理解できな

ったり、友だちの考えから自分の考えを見直したりすることが十分できていない。

そこで、以下のような考えマップの活用を通じた手立てをとるようにする。

・ **調べた事実から考えを作り出すために**

【調べた事実のラベル化】

子どもが調べた事実を、キーワードを用いて端的に表現させ、付箋紙に書き込ませてラベル化する。その際、教師から例示資料を提示し、事実の認識が表れるように指導する。

【ラベルのグループ化】

できたラベルのグループ化を行う際に教師からモデル児童を提示し、

- ①自分の視点についての考えにあてはまる事実を集める
- ②あてはまらない物をさらに関連付ける
- ③視点にあわないラベルをはずす。
- ④タイトルをつける

という手順を提示しながら、作業を行うようにさせる。

上記のようにラベル化、グループ化を行うことを通して、自分の視点に対する根拠となる事実を精選し、タイトルを付けることで、自分の考えを明確にしていくようにする。

・ **自分の考えを見直すことができるようにするために**

【中間交流会】

中間交流会までに作成された子どもの考えマップを分析、把握し、中間交流会で考えさせたい内容が色濃く出るような子どものマップを選択し、モデル児童として各グループに提示する。交流会では、話し合いの進め方を

- ①ラベルの検討
- ②グループの検討
- ③タイトルの検討

というように行い、中間交流会で提示された子どものマップはラベルを移動したり、書き加えたりできるようにしておき、話し合いのあとが見えるようにしておく。中間交流後、全体交流に向けてモデル児童と見比べながら、自分の考えマップを見直す活動を行い、足りないラベルを付け加えたり、ラベルを書き直したりさせるようにする。

・ **交流活動で友だちの考えを理解することができるようにするために**

【全体交流会】

・全体交流会までに作成された子どもの考えマップを分析、把握し、全体交流会で考えさせたい内容が色濃く出るような子どものマップを選択し、モデル児童として提示する。交流会では、話し合いの進め方を

- ①自然の面から
- ②技術の面から
- ③それぞれ発表させ、質問や意見の交換を行わせる
- ④関連づけすることができるラベルをつなぐ
- ⑤学習問題の答えについて話し合う。

という手順を示しながら、話し合いを進めるようにする。

友だちの考えを理解することができるように、ラベルをもとに事実を発表させ、そのラベルに関係ある資料などを指し示しながら、発表するようにする。

また、そのラベルがどのように自分の視点とつながるかを発言させるようにする。

・ **友だちの考えから自分の考えを見直すことができるようにするために**

【全体交流会】

・全体交流会でお互いの考えの中をつながる内容について、ラベルを付加し、線をつなぐ作業を行わせることで両者のつながりに気付くことができる。その上で、自分の考えマップを見直し、文章化させることで、自分の考えを見直し、確かになった考えを持つことができる。

6 小単元の構成図

中核的事項

森林に囲まれた小石原では、原料の面で土地の条件を生かし、古くから伝わる技術や道具を使いながら、焼き物の生産を続けている。

関連的事項

<p>小石原焼きは、原料の面で土地の条件を生かしながら生産されている (小石原焼きと土地の条件)</p>	<p>長い歴史を持つ小石原焼きは、伝統的な技術や道具を使ってつくられている (焼き物作りをする人々の工夫や努力)</p>	<p>小石原焼きは、人々に親しまれているものを作っていきたいと願う人々によって受け継がれている (小石原焼きへの思い)</p>
<p>○小石原の位置・自然 ・福岡市の南東に位置する ・村の面積の3/5が森林 ・人口1249人 ○古くから続く小石原焼き ・320年の歴史 ・51件の窯元 ・民陶祭り ○小石原焼きの原料と条件 ・小石原村でとれる陶土 ・陶土づくりに必要な水 ・窯で焼くための薪 ・上薬の原料も村の近く</p>	<p>○主な生産工程 ①菊練り ②形を作る ③模様をつける ④天日干し ⑤釉薬がけ ⑥登り窯で焼く ○昔から受け継がれてきた手作りの道具 ・へら・とんぼ・刷毛 ・かなろくろ・登り窯 ○昔から受け継がれてきた伝統的な技法 ・刷毛目・櫛目・とび鉋</p>	<p>○変わってきた作り方や道具 ・けろくろ 電動ろくろ ・登り窯 ガス窯 ・工場から買う陶土 ○変わらないもの ・昔から続く技術や道具 ・使う人のことを考えてつくる ・小石原焼きを守り続けていきたいという気持ち ○村の取り組み ・民陶むら祭り ・伝統産業会館 ・道の駅、共同展示場 ・小石原小学校陶器の食器</p>

7 指導計画

階	学 習 活 動 と 内 容	考えマップの作成と活用	主 な 支 援	配時
つ	<p>1 小石原村の写真と、村のビデオから小石原村に関心を持つ。 (1) 地図帳で福岡市からのルートをたどりながら、距離を計る (2) 小石原村の写真からわかることを話し合う。 (3) 雪の様子やろくろを回しているところから、自然の様子や産業の様子を観察する。</p>			1
か	<p>2 小石原村について概要を調べる。 ・資料(パンフレット)で福岡市と比較する。 ・主な産業 ・生活の様子(子どもの遊び、交通等) ・小石原焼きの作品に触れる。 ・小石原の年表 ・陶工であるAさんについて知る。</p>		○図工の学習で焼き物作りやろくろ体験をさせておき、Aさんの実演に感激させるようにする。	1
む	<p>3 Aさんに、小石原焼作成の実演をしてもらい、学習問題を作り、考えマップに表す。 学習問題 なぜ早川さんたちは、すばらしい小石原焼を作れるのだろう。</p>	○考えマップに学習問題を書く。自分の予想を	○導入の小石原	1

／	<p>小石原の自然が焼き物作りにいいから</p>	<p>昔からの伝統をAさんたちが受けついでいるから</p>	<p>書き、学習問題と線でき、なぜそう考えたか理由を記入する。</p>	<p>村の様子や、Aさんのろくろ実演を想起させ、2つの視点を導き出すようにする。</p>
4	<p>学習問題に対する予想を立て、調べる計画を立てる</p>			
さ ぐ	<p>・焼き物に必要な材料は何で、小石原でとれているのだろうか。 ・どんなところが焼き物作りによいのだろうか。</p>	<p>・小石原焼を作るときにどんな技術を使っているのだろうか。 ・どれぐらい修行すれば上手に作れるようになるのだろうか。</p>		
5	<p>自分の課題にそって調べ、自分の考えをマップに表す。</p>			
る	<p>(1) 自分の課題について調べる。 (文書資料・インターネット Aさんの実演見学・インタビュー) (2) 調べた事実をラベルに書き表す。 (3) グループ化・タイトルを付ける。 (4) 中間交流会を行い、ラベルを精選するとともに、グループ化やタイトルについて検討する。</p>		<p>○ 調べた事実について、プリントにまとめ、項目ごとにキーワードを選択し、ラベル化する。 ○ ラベル化したものを関係付けてグループ化する。 ○ グループ化したものにタイトルを付ける。 ○ 中間交流会で、モデル児童のマップを見ながら検討し、ラベルやグループ化について見直し、修正する。</p>	
6	<p>調べてわかったことを考えマップにまとめて交流し、小石原焼きについて話し合う。</p>			
／	<p>(1) 中間交流会をもとに、調べてわかったことをマップにまとめる。 (2) 学習問題の答えについて話し合う。</p>		<p>○ 修正したマップを元に全体交流会に参加し、自分のマップと見比べながら、モデル児童との考え方と比較する。 ○ 交流をもとにマップを修正し、自分の考えを文章化する。</p>	
ま	<p>Aさんたち小石原村の人々は、自然の中の豊富な材料を生かし、昔から伝わる技術で伝統を守りながら焼き物作りをしている。</p>			
と	<p>(3) 話し合いをもとに、考えマップを見直し、作り直した上で、文章でまとめる。</p>			
め	<p>(3) 色々な種類の小石原焼を見て課題を持つ。</p>			
る	<p>これからも長く歴史のある小石原焼きを作り続けていくためには、どうしたらいいのだろうか</p>		<p>○ 新しい課題をもとに、考えマップ②を作成する。</p>	
／	<p>(4) 調べてきたことをもとに、考えをまとめ、話し合う。</p>		<p>○ 今までのラベルを活用して自分の考えを作る。</p>	
め	<p>・小石原焼のよさを伝えていくべき</p>	<p>・新しい時代にあった焼き物を作るべき</p>	<p>○ 新たに調べた事実をラベル化し、以前のものも含めてグループ化し、タイトルを付ける。</p>	
る	<p>これからも小石原焼を作り続けていくために、Aさんたちは、自然を生かし伝統を守りながらも、時代にあった皆が使いやすい焼き物をつくるように努力している。しかしそれだけでなく民陶村祭りや伝統産業会館など、小石原のよさをさらに伝えていくことが必要である。</p>		<p>○ モデル児童のマップをもとに交流を行い、自分の考えと比較する。</p>	

(5) 交流したことをもとに、考えマップを再構成し、文章でまとめる。	○ 交流をもとに、自分の考えを見直し、マップを修正した後、文章化し、自分の考えを確かにする。		
7 お世話になった自分が学習したことをAさんへ手紙で知らせる。			

8 本時 平成 17 年 11 月 15 日 (火) 第 5・6 校時

9 本時指導の目標

- 自らの考えマップをもとに、相手グループのラベルやタイトルとの関連を考えながら、意欲的に話し合い活動に参加することができる。
- モデル児童のマップをもとに、ラベル、タイトルを検討することを通して、相手グループの考え方を理解し、自分のマップと関連させることを通して、自分の考えを広げることができる。

10 本時指導の考え方

今までは、マップ作成時におけるグループ化をどのようにすればよいか、中間交流会でのマップの活用をどのようにすればよいか、という点で検証授業を行ってきた。その中でモデルを教師が意図的に選択し、提示していくことを通して、マップを作成したり交流したりすることの有効性について明らかになってきた。

そこで、それらの活動を通してきた児童が、全体交流会ではどのように考えを確かにしていけばよいのかという点で、検証授業を行っていきたく考えた。

グループ化を通して自分のマップを作成した児童は、中間交流会でラベルやタイトルの検討を行い、よりよいマップとなっている。それをもとに全体交流会を行うことで、新たな事実を認識し、自分の考えと関連させていくことを通して、自分の考えを確かにしていくという研究主題に関わる内容である。

そのために、以下のような授業仮説を設定し、話し合い活動を行っていくことで、主題に迫れるのではないかと考えた。

[授業仮説]

中間交流会後に付加修正した考えマップをもとに、視点ごとのグループで検討する話し合い活動において、以下のような手だてを講じていけば、自分の考えマップを検討し、自らの考えを広げていくことができるであろう。

モデル児童のマップをもとにした、全体でのラベルやグループの検討作業を行い、事実の認識を確かにすることで、個人でのラベル操作活動を通して事実を関連させることができるであろう。

本時は、中間交流会後に付加修正した考えマップをもとに、視点ごとのグループで検討する話し合い活動と考えマップの再構成の場面である。

まずそれぞれの視点のモデル児童のマップを提示する。(グループでは中間交流会を行っているために、児童のマップは、ほぼ同じ形となっている。)

発言は、グループ化したものごとに発言をさせるようにする。

例えば、「焼き物にあった小石原の土」というグループを説明するときは、土を中心に調べた児童を選択し、小石原の土がなぜすばらしい小石原焼きが作れることにつながるかという根拠となる事実(ラベル)を資料を使いながら説明するようにさせる。発言内容は、

①タイトルと視点のつながり

②各ラベルの意味とそれが学習問題とどうつながるか

の順に発言させるようにする。

その後他の視点の児童から質問や意見を出させ、交流するようにする。

他の視点の児童は、あらかじめ他の視点の色の付箋紙を配布しておき、納得したラベルについては、書き加えていくようにさせる。

同じように、進めていくことを通して検討が終わったときには、他の視点の事実を認識し、自分の考えに加わったラベルが自分の考えマップに表された状態になると考える。

そこで、もう 1 度自然と伝統のどちらが答えなのか児童にたずねる発問を行う。

事実の認識が深まった児童は、どちらも答えであると考えるので、理由をたずねていくことで、ラベル同士の関連に気付いていくことができると考える。数名の児童に発言させたあと、個人で関連を探していく作業を行う。関連がうまくできなかつたりした場合は、取り上げて全員で考えていく場面を設定するようにする。

最後に学習問題の答えについてマップに書き込むようにし、マップを完成させる。完成したマップが、

自分の考えの広がりを出すことを知らせ、視覚的に自分の考えの広がりをお確かめられるようにする。

その後、自分の考えマップを見ながら振り返りコメントを書かせるようにする。書く視点としては、

- ①学習問題の答えについて自分が思ったこと
- ②自分の考えが広がった理由
- ③考えマップを作成して思ったことを書くようにさせる。

1.1 本時展開

学習活動と内容	マップの活用	教師の指導・支援
<p>1 本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>友だちの考えマップを検討して、自分のマップを見直し、自分の考えを広げよう。</p> </div> <p>2 グループの代表児の考えマップを提示し、ラベルやタイトルの検討をする。</p> <p>(1) 自然グループのモデル児童がタイトルの関連につけた理由と各ラベルの持つ意味について説明する。</p> <p>(2) ラベルやタイトルの検討を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ タイトルが予想とつながっているか ○ ラベルがタイトルとつながっているか ○ つながっている事実は全員で確認をとる。 <p>(3) 伝統グループのモデル児童がタイトルの関連につけた理由と各ラベルの持つ意味について説明する。</p> <p>(4) ラベルやタイトルの検討を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ タイトルが予想とつながっているか ○ ラベルがタイトルとつながっているか ○ つながっている事実は全員で確認をとる。 <p>3 相手のグループとの関連する事実やグループについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ お互いのグループのラベルやタイトルと関連付けることができるものを探す ○ 板書のラベルを線でつなぎ、つないだ理由を話し合う。 <p>4 自分のマップを修正し、学習問題の答えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 相手グループの納得した事実はラベルを追加し、再構成する。 ○ 自分の考えマップを見ながら、学習問題の答えをマップに書き入れる。 <p>5 本時学習を振り返って、振り返りコメントを書く。</p>	<p>○モデル児童のマップを提示する。ラベルは操作できるようにしておく。</p> <div style="text-align: center;"> <p>小石原の自然があるから</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>受けつがれてきた伝統があるから</p> </div> <p>○提示した両者のマップを比較しながら、関連したものどうしを線で結ぶ。</p> <p>○線で結んだ理由を、記入する。</p> <p>○自分のマップと見比べて、付け加えるべきラベルを付加し、線で結ぶようにする。</p> <p>○修正した自分の考えマップを見ながら、学習問題の答えをマップに書き入れる。</p> <p>○完成した自分のマップを見ながら。振り返りコメントを書く。</p>	<p>○発表前に、意図的にモデル児童を選択しておく。</p> <p>○話し合い方として、タイトルの検討ラベルの検討の順に行うように指導する。</p> <p>○検討を行う際は、ラベルとタイトルと予想・学習問題とのつながりについて検討させるように指導する。</p> <p>○写真等をつかって相手グループに発言できるように、資料を掲示しておく。</p> <p>○検討を行った場合、つながりに納得できたラベルを書き加えるようにさせる。</p> <p>○マップの修正がうまくできない子は、モデルの板書を参考にして修正作業を行うように助言する。</p> <p>○修正したマップを見直すことで、自分の考えの広がりについて視覚的に気付かせるようにする。</p>